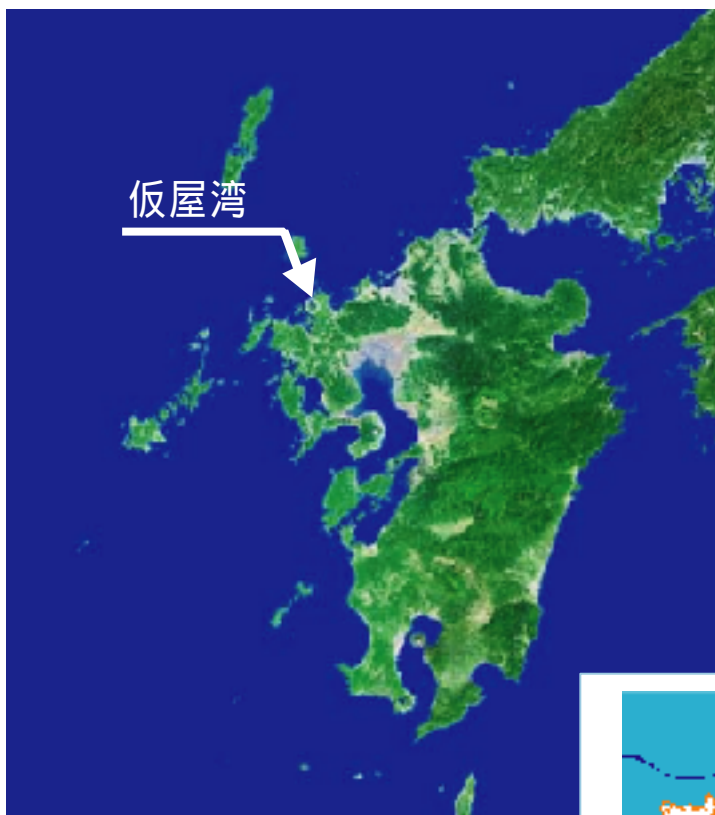


海域の概要

本湾は、三方を山に囲まれ、北部を玄界灘に開いた湾です。湾奥には、海岸部のわずかな平坦地に仮屋港が存在します。現在湾内では真珠の養殖などが行われています。



Specification

諸元

湾口幅：0.5 km

面積：6.3 km²

湾内最大水深：2.5 m

湾口最大水深：2.5 m

閉鎖度指標：5.02

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

佐賀県東松浦郡海町高岩鼻から 286 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

仮屋湾は、湾口に高石鼻と呼ばれる岬が湾口を閉めるようにつきだした巾着型の湾で、湾内には有浦川が主要な河川として流入しています。

湾内の水質悪化はさほどでもありませんが、養殖場として利用され、底質環境が悪化しているところもあり、時々赤潮が発生しています。

自然

リアス式の美しい海岸線は、玄海国定公園の一部を成し、対馬海流の恵みを受け海の幸が豊富で、釣りのメッカにもなっています。

また、玄海国定公園内の仮屋湾にぽっかりと浮かぶ三島は、その名の通り、もとは三つの島から出来ていましたが、現在 10m 程の橋により陸地と結ばれています。ここには三島公園、三島神社、玄海温泉福祉センターなどがあります。このうち「三島公園」は玄海町が自然との共存を目指し、景観や環境を壊さないようにしながら整備した自然公園です。

湾口付近の岩礁域にはホンダワラ類の藻場が分布するほか、湾奥部にアマモ場も点在しています。

東松浦半島一帯は、通称「上場大地」と呼ばれ、海岸から駆け上がる階段のような棚田を見ることができます。



棚田からの玄界灘

文化歴史

仮屋湾内にある仮屋地区の海辺や、仮屋地区対岸の肥前町菖津（しょうづ）地区の海岸には、直径 6 cm から 70 cm ほどの丸い石が多く、その昔、船に乗れない仮屋の鬼と菖津の鬼が、この石を投げ合い喧嘩をしたと云い伝えられています。

玄海町の代表的な伝統行事の三島神社の秋祭りは、御座船に乗せた 2 台の御輿（みこし）を、大漁旗を掲げた数十隻の船で伴走して仮屋湾内を三周し、その後、厄入りの男達の手で御輿を担いで御幸所に安置するという祭りで、その歴史は 560 年余りになります。昭和 62 年からは手作りの鯛の曳き山が 57 年ぶりに復活しました。また、地元の小学生が巫女に扮し「浦安の舞い」を奉納します。

産業

主な産業は農業で米麦を主体としていますが、タバコや柑橘の栽培も盛んです。

漁業では、マダイ養殖が盛んで県内最大の養殖基地となっています。そのほか、湾内では真珠養殖やごち網によりタイ・キス・カワハギ・イサキなどが漁獲されています。また、有浦川では 2 月～ 3 月のシラウオ漁も有名です。



ごち網